

「信徒伝道者 ピリポ」

このピリポは十二使徒のピリポではない。彼はステパノと共に執事に選ばれた人である。

ステパノの殉教から大迫害が始まり、クリスチャンたちは散らされていった。(マタイ10:23)

しかしそれは、火の粉が飛び散るようなもので、信仰と聖霊による熱意に満ちた彼らは、行く先々で福音を伝え、イエス・キリストによる福音が全世界へ広がる起点となったのである。

執事ピリポはエルサレム教会から離れ、事務的奉仕からも解放され、福音を伝える事に専心する機会が与えられた。ピリポはサマリヤに下り、多くの人々を救いに導いたが、エルサレム教会からペテロとヨハネが遣わされて来ると、さっさと譲り、ガザへ導かれ、エチオピアの大臣に対して、最初の異邦人伝道が成された。終わったとたん、彼はカイサリアに帰って行った。

ピリポは沸騰ポットのような人である。信仰によって電源に繋がれ、聖霊の注ぎを受けて熱く燃え、その口から人々に温かい神の愛・福音を伝えないではいられない人である。

主に全く従う心が与えられていたピリポは、人の評価や過去の慣習にこだわらなかった。彼は信徒であったが、神のご指示に忠実で、無欲で、全くご聖霊に導かれた幸いな人である。

その後のピリポの行動はあまり記録されていないが、カイサリアの彼の家は、使徒たちの宿泊所となっていた(使徒21:8,9)。そして聖書には、彼に執事ではなく、伝道者という肩書きが付けられている。彼はその後も救霊の熱意に燃え、一家を挙げて福音のために労し、戦い、用いられていた。信徒伝道者ピリポの家は何と幸いだろうか。

[聖書の学び]

I、教会への迫害とご聖霊の働き(使徒8:1~12)

1、ステパノが殉教した日から、起きたこと。(使徒8:1~4、マタイ10:23 p18)

2、ピリポはどこへ行き、何をしましたか。

① サマリヤの町での主のみわざ。(使徒8:6 ~12)

② ピリポによる福音を聞いた人々。(使徒8:12)

3、魔術師シモンとペテロ(使徒8:9~25)

①ピリポと出会った魔術師シモン。(使徒8:9~13)

②サマリヤへ遣わされたペテロとヨハネによるみわざ。(使徒8:14~24)

Ⅱ、ご聖霊に全く従うピリポ（使徒8：26～40）

1、エチオピア人の救い

*エチオピアがキリスト教国になる土台となった。

①行き先……ガザ（荒野）に下る道（使徒8:26）

* 直ぐに従ったからこそ、グットタイミング

②エチピアの高官に対して、みことばを伝える（使徒8:27～35）

* 解き明かしの重要性

③バプテスマを授ける（使徒8:36～39）

2、使命を終えた後のピリポ。（使徒8:39、40）

Ⅲ、生涯、全家を挙げて主に仕えたピリポ（使徒21:8～9 p278）

1、カイサリアの ピリポの家

2、ピリポの娘たち

* **ディスカッション** （心を開いて話し合ってみましょう）

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。